

「北方領土教材」指導案（高等学校・地理）

埼玉県北方領土教育者会議

学年、教科	高等学校全学年、地理歴史科
学習指導要領の内容	(2) エ
科目・単元	地理B・「民族と国家」
利用のタイミング	授業の導入、または授業のまとめ
利用する教材	<p>北方領土検定：行政編・産業編 北方領土ワークシート②③④</p> <p>教科書：地理B 副教材：各種資料集・図解等</p> <p>北方領土問題対策協会「歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島全図」</p> <p>国土地理院地形図</p>
利用のねらい	<p>①教材の部分使用（20分程度）により、興味関心を引く「授業の導入」や分かりやすい学習事項の整理として「授業のまとめ」にする。</p> <p>②日本の領域を学習する上で、最北端の地である北方領土について興味を持ち、単純な知識ではなく、北方領土での生活や文化などについても理解を深める。</p> <p>③資料の読み取りを行うことで、情報処理能力を養う。</p>
学習活動の流れ	<p>(1) 授業導入として利用する場合</p> <p>①資料を読みながら、「検定」行政編・産業編の問1～10と「ワークシート②③④」を20分間で解答させる。</p> <p>②模範解答をプロジェクター等で投影し、生徒は隣の生徒とペアになり、答え合わせを行う。</p> <p>(2) 授業のまとめとして利用する場合</p> <p>①ペアになり、資料を見ずに20分間で解答させる。</p> <p>②模範解答をプロジェクター等で投影し、資料を配り教員が若干の説明を行う。</p>
指導上の留意点	<p>①教科書（地理B）では「北方領土問題」として10行程度しか記載がなく、現在の国家間の状況が記されているにすぎない。しかし、北方四島には75年前まで日本人の暮らし・生活があった。当時の人々の生活や文化について知り、生徒が興味関心を持ち、「自分事」として考えられるようにする。</p> <p>②適宜、当時の埼玉県など関東近県の産業などと比較しながら、より身近に北方領土について考えられるように工夫する。</p> <p>③必要に応じて、現在の北方領土の状況などを映像教材（NHKなど）を用いて補足を加える。</p> <p>④北方領土に興味関心をもたせるように留意する。（例、最新の新聞記事を紹介したり、島に学校があるかなど発問したりする。）</p>

令和3年3月